

企業間取引に関するマッチング・バーゲニング・モデルの推定

間 真実（はざま まこと）

所属：内閣府経済社会総合研究所

要旨

本稿は、企業間ネットワークにおける特定の財の取引に関するマッチング・バーゲニング・モデルを構造推定する。依拠するモデルでは、潜在的な売り手と買い手の組み合わせごとに、取引余剰の分割をめぐる交渉が行われる。どの交渉も他の交渉から影響を受けるので、潜在的な取引関係ごとの交渉の合意可能性、経済主体ごとの交渉力、および実際に成立する取引関係ごとの取引条件が、相互依存・同時決定の関係にある。また均衡では、取引余剰が正であるにもかかわらず当事者双方にとって合意可能な分割案がないために成立しない取引も存在する。この享受されない取引余剰は、企業間取引の経済が均衡を達するために放棄されたものであり、経済システム全体の機会費用といえる。本稿は、企業間取引の有無と企業ごとの属性に関するデータを用いて、取引余剰関数だけではなく、この「システム全体の機会費用」も推定する。特定の財について、国内の企業間取引のデータを用いて推定を行った結果、経済システム全体の機会費用は実現した取引余剰全体と比べて微小であることが示された。